

編集後記

近頃の書類には、手書きのものが少なくなった。どこのオフィスにも、ワードプロセッサが置かれ、この装置で言葉が処理されるときれいな活字で文書ができあがる。ワープロで書く時代になったのだらう。

英語の write の語義に「タイプライターで打つ」というのがある。この語義での初出は「一八八三年である(OED)」。W・A・バートがタイプライターを発明したのはそれより五十四年前の一八二九年のことであるが、彼はその機械を typographer と呼んだ。タイプで *type* する機械ということである。

印刷術が発明される前は、*scribe* と呼ばれる人達によって写本は筆写されていた。*scribe* の語源をさかのぼると、ラテン語 *scribere* (書く) に至る。*scribe* には「書く」の他に「刻む」という語義もある。この語は、ギリシア語の *oxypographos* (ひつかいて刻む) 同様、印欧語 **sker-* (刻む) からくる。write (古英語 *writan*) も、*graph* (ギリシア語 *γραφειν* 「書く」) も原義は「ひつかいて刻む」である。「書く」ことは「搔く」ことであったのだ。

搔くにせよ、タイプライターを打つにせよ、ワープロを操作するにせよ、書くのは思考を伝えるためである。そのために「書く」ということがなされてきた。この度も多くの先生方が『文學論叢』に書いて下さった。

(K・T)

平成 元年十二月二十日 印刷
平成 元年十二月二十五日 発行

(非売品)

編 者 愛知大学文学會
代表者 尾崎昭美

印刷所 豊橋市小池町
東邦印刷工業所

発行所 豊橋市町畑町
愛知大学文学會
振替 名古屋 三一四五六五四